



微笑

第50号
 令和1年10月15日
 発行者
 綾瀬市身体障害者
 福祉協会

夏の交流会

七月二十日綾瀬市オーエンス文化会館小ホールで「綾瀬市ボランティア協議会」の交流会が行われました。

いつも通り交流会には身障協会会員の参加が多く、今回も四十人以上が参加しました。

会長や市長を初めとした来賓の挨拶の後、乾杯。美味しいお弁当やお菓手に舌つつみを打ちながら、手話サークル「あやの会」の手話コーラス、「あやせでオペラを！の会」の唄、そして皆で綾瀬市民の歌（知らない人がほとんど）や懐かしい唱歌をコーラス。



その後はお決まりのビンゴゲーム！。今年もボランティアで来ている高校生



達の進行で始まり、数字の発表ごとに歓声が上がリ、会場全体が大賑わい、当たった人はお花、お菓子、台所用品等の賞品を手を笑顔、閉会の挨拶を聞いて次回の再会を約束してお開きになりました。ありがとうございました。

◎保健福祉プラザで
 花火大会を観覧

八月二十四日、綾瀬市福祉総務課で企画された「綾瀬市商工会主催の花火大会」の観覧が、保健福祉プラザ二階南側テラスで行われました。

今回の企画は、保健福祉プラザの効果的な利用を促進するための一環として、試験的な事業として実施されました。

身体に障害があると花火大会を近くで観覧しようと思っても、混雑して近くまで車で行くことが出来なかつたり、人混みの中では動きづらかつたりといろいろな困難があります。

その様なことから、障害のある人たちが保健福祉プラザの二階テラスから花火大会を観覧しやすいか？などを検証するために福祉総務課から当会の役員に声が掛かり、観覧させて頂きました。

二階のテラスからは、文化会館の前の芥から打ち上げられる花火がとても良く観ることが出来て花火大会を満喫することが出来ました。



この場所なら、人混みを気にしないでゆっくり観覧できたり、プラザ内に多目的トイレもあるので安心です。

また、室内からも観覧できるので雨が降っても大丈夫なことや、体温調整が難しい障害のある人も安心して観覧できます。

ぜひ来年からは、福祉総務課の事業として花火大会の日には保健福祉プラザで障害のある人が観覧出来るようにして欲しいと思います。



◎心もお腹も満喫したバス旅行

車いす部会 前田 多栄子

毎年楽しみにしている身障協会恒例のバス旅行が、九月二十四日に行われました。今年の行き先は、横浜大さん橋（見学）と横浜中華街（中華料理を満喫&ショッピング）でした。心配していた台風も前日までに通り返り、空には秋の到来を感じさせるうろこ雲が広がっていました。

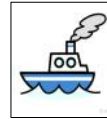


集合場所の文化会館駐車場に到着すると既にリフト付きの観光バスが待っていました。リフトで車内へ乗り込んでから座席に移ってバスの大きな窓から景色を楽しみながら、最初の目的地「横浜大さん橋」に到着。まず始めに全員で記念写真をパシャリ！その後は自由行動に…。

大さん橋の愛称は、その大きさと形から「くじらのせなか」と呼ばれているようです。床が少し湾曲しているところもありますが、ほとんどの場所がスロープになっていたり、段差もほとんど無くバリアフリーになっていました。

海に張り出している大さん橋からの視界には遮るものは何もないので、

赤レンガ倉庫やみなとみらいのビル群などの景色がとても良く見えました。大さん橋先端の絶景ビューポイントでは、ベイブリッジをバックに皆で写真撮影をパシヤリ！



大さん橋をあらこちら歩き回って丁度お腹も空いてきた頃にバスで五分ほど移動して、次の目的地の横浜中華街に到着。六年前に身障協会のバス旅行で横浜中華街に来た時は、同発(どろはつ)というお店で中華料理を食べましたが、今回は状元楼(じょうげんろう)というお店で飲茶、デラックスというランチコースを満喫しました。次々に運ばれてくる前菜の盛り合わせ、アワビやフカヒレが入った様々な点心、ピリ辛の春雨炒め、フカヒレ入りスープ、杏仁豆腐などに舌鼓を打ちながらお腹も一杯になったところで、出発時間までショッピングを楽しみました。



中華街を出発する直前に雨が少しパラつきましたが、帰りの道路も渋滞することなく予定時刻に無事に文化会館に到着することが出来ました。皆さんお土産を沢山抱えて、笑顔で帰路につかれていきました。今回のバス旅行も楽しい一日を過ごすことが出来、ありがとうございました。

外出支援を住民の手で

「福祉有償運送」再開など、参加呼びかけ

外出時に介助が必要な高齢者や障害者などの外出支援として、介助付の個別輸送サービスを提供する福祉有償運送の事業開始をめざし、市民グループ「おでかけ綾瀬」が準備を進めている。2020年4月のスタートをめざし、年内にもNPO法人の認可受けたいと考えて、事業への参加に関心のある市民を募っている。

福祉有償運送は、NPO法人などの非営利団体が、自治体や圏域自治体などでつくる運営協議会の合意のもとで提供する公共的な外出支援サービスで全国に普及している。

この有償運送を担えるのはNPO法人や社会福祉法人、医療法人、一般社団法人、商工会や農業協同組合、自治会などの非営利団体に限られていて、運送対価はおおむねタクシーの半分程度が上限とされている。

利用できるのは、身体障害者や要介護認定者、要支援認定者、知的障害者などに限られる登録制サービスで、外出を支援する民間の介護タクシーと条件付き無償送迎サービスの間際に位置する。

【6月に市が開いた外出支援講座】



有償運送を担う登録団体は2017年3月時点で全国に2465団体あり、神奈川県内では203団体が活動している。綾瀬市内では18年3月まで登録団体のNPO法人がサービスを提供していたが撤退。同年4月以降は空白地帯となっている。

高齢者や障害者の外出支援は、市も主要事業のひとつに位置付けていて、保健福祉プラザ内に外出支援を専門とする認定NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク(横浜港北区)からコーディネーターを招いた。

この専門家による支援のもとで市民から有志を募り、福祉有償運送の開始を念頭においた任意団体「おでかけ綾瀬」の設立準備会が立ちあがった。

この団体が年内にもNPO法人の設立認可を申請し、来春のサービス開始をめざしている。

認定NPO法人の副理事長で綾瀬市福祉団体育成事業コーディネーターとして招へいされた河村尚子さんは「NPO法人の設立だけではなく、持続可能な運営体制を構築することが重要。今もメンバーを募っているので、興味のある方は積極的に参加してほしい」と参加を呼び掛けている。

尚、九月七日土曜日に「綾瀬市保健福祉プラザ」において、綾瀬市福祉総務課三枝課長、綾瀬市障がい福祉課山上課長、綾瀬市社会福祉協議会地域福祉班班長石橋氏、他、綾瀬市内障害者団体の代表、介護事業者・福祉施設ケアマネージャーを招待し、NPO法人設立会が行われました。そこで、来年の4月から「福祉有償運送」として活動する予定になりました。

サービスは介護保険制度の要支援・要介護認定者と障害者、病弱者や子育て支援を必要とする人などの会員に提供する。移動距離や付添サービスなどの応じて料金を設定する。来年二月より利用者加入登録手続きを行う予定。

福祉有償運送や高齢者・障害者の外出支援に関する問い合わせは「おでかけ綾瀬」【同事務局】090・8343・9034(上間さん)へ。

編集後記

今年もあと二ヶ月、社協協会の行事も「レクリエーション大会」と「あやともまつり」の二つになりました。

皆さんも元気に参加して下さい。どうぞ宜しくお願い！

西川和朗